

令和7年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業

実施報告書

現地集合型研修



1. 目 的

地域国際化協会における広域連携は、基本的に各ブロック内を想定しており、東日本大震災のような大規模広域災害の発生により、ひとつのブロック内で複数個所が同時に被災した場合、他のブロックからの応援が円滑に進むようブロックを超えた応援想定と顔の見える関係づくりを進める。

2. 業務内容

全国の地域国際化協会職員を対象とした広域での災害時外国人支援に関する研修の実施に係る以下の業務

- (1) 日程・会場決定
- (2) 研修企画・事前打ち合わせ
- (3) 会場手配
- (4) 申込依頼・参加者とりまとめ、参加者名簿の作成
- (5) 研修の資料準備
- (6) 研修の物品等準備
- (7) 会場設営
- (8) 研修の実施
- (9) 講師への支払い
- (10) 報告書作成

3. 実施日時・会場

日時：令和7年8月29日（金）13時～16時半

会場：東京体育館 第一会議室（東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目17-1）

4. 対象

都道府県、政令指定都市、地域国際化協会の職員

5. 研修テーマ

オンラインツールを活用した災害時対応

6. 実施内容・スケジュール

挨拶 （一財）自治体国際化協会 理事 小池 潔

講義 「佐賀県におけるオンラインツールを活用した災害時対応」

北御門 織絵 氏（佐賀県地域交流部多文化共生さが推進課・多文化社会 コーディネーター）

矢富 明德 氏（公益財団法人佐賀県国際交流協会・企画交流課長）

グループディスカッション「佐賀県における災害時外国人支援訓練の体験」

（特活）多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 土井 佳彦 氏

《プログラム》

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:10	開会 趣旨説明、諸連絡、主催者挨拶等
13:10～14:20	【講義】佐賀県におけるオンラインツールを活用した災害時対応 北御門 織絵 氏、矢富 明德 氏 ・講義（50分） ・質疑応答（20分）
14:20～14:30	<休憩>
14:30～15:50	【グループディスカッション】 佐賀県における災害時外国人支援訓練の体験 ・諸説明（10分） ・グループディスカッション（70分）
15:50～16:20	ふりかえり・全体共有・質疑応答
16:20～16:30	講師講評・まとめ
16:30	諸連絡、閉会

7. 実施結果

前半の講義では、講師より令和元年及び令和3年の佐賀豪雨時の対応を中心に、佐賀県・(公財)佐賀県国際交流協会における災害時外国人支援に関する取り組みについて、詳しいお話を伺うことができた。特に、オンラインツールの活用事例として、Facebook や LINE 等の SNS による外部への情報発信と内部での連絡・情報共有、また Google スプレッドシートを活用した支援活動について具体的な紹介があった。また、その経験を踏まえて今後どのように災害時対応や平時の取り組みを充実させていくかについても発表があり、参加者にとっても学びの多い時間となった。

後半のグループディスカッションでは、実際に佐賀県と(公財)佐賀県国際交流協会が協働で行なっている Google スプレッドシートを活用した災害時外国人支援訓練の一部を参加者全員で体験することができた。ここでは、Google スプレッドシートの活用方法（デバイス毎の使い勝手や慣れ）やオンラインツールの利用制限（セキュリティ等）などの確認、また外部支援者との連携・協力に向けた訓練の重要性等が確認された。

全体を通じて、参加者の満足度が非常に高い研修であった。今後も時宜にかなったテーマを取り上げ、関係者のスキルアップとネットワーク強化に努めていきたい。

8. 参加者名簿

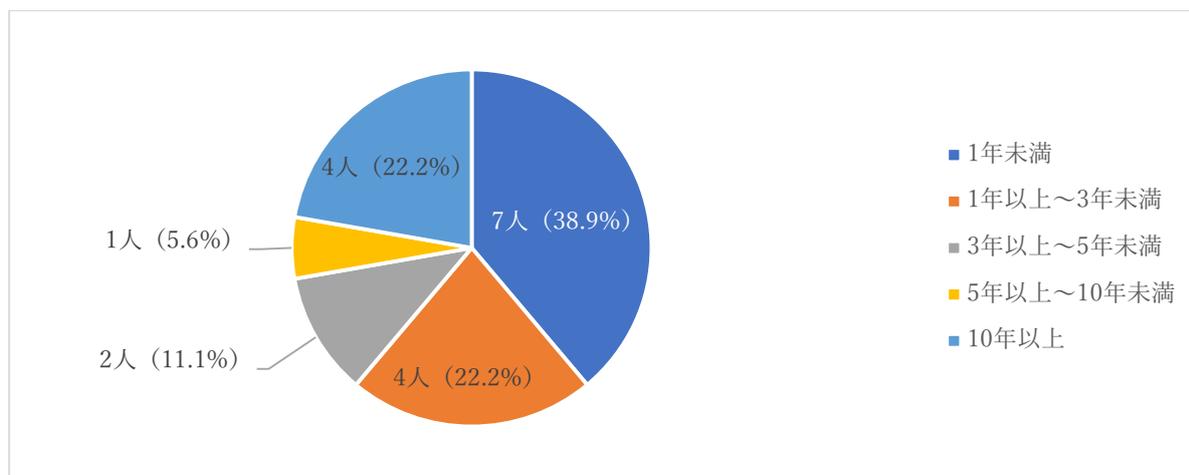
計 24 名

地域ブロック	都道府県	団体名	人数	
北海道・東北	北海道	北海道	1名	
	宮城県	仙台市	1名	
	新潟県	新潟県	1名	
		新潟市	1名	
関東	茨城県	(公財) 茨城県国際交流協会	1名	
	千葉県	千葉県	1名	
		(公財) 千葉市国際交流協会	1名	
	神奈川県	(公財) 横浜市国際交流協会	1名	
		(公財) 横浜市国際交流協会	1名	
	東海・北陸	石川県	(公財) 石川県国際交流協会	1名
福井県		(公財) 福井県国際交流協会	1名	
岐阜県		岐阜県	1名	
		(公財) 岐阜県国際交流センター	1名	
愛知県		愛知県	1名	
		(公財) 愛知県国際交流協会	1名	
		(公財) 名古屋国際センター	1名	
近畿		大阪府	(公財) 大阪府国際交流財団	1名
			(公財) 大阪国際交流センター	1名
	兵庫県	(公財) 神戸国際コミュニティセンター	1名	
中国・四国	島根県	(公財) しまね国際センター	1名	
	香川県	(公財) 香川県国際交流協会	1名	
	愛媛県	(公財) 愛媛県国際交流協会	1名	
九州・沖縄	福岡県	(公財) 福岡県国際交流センター	1名	
	大分県	(公財) 大分県芸術文化スポーツ振興財団	1名	

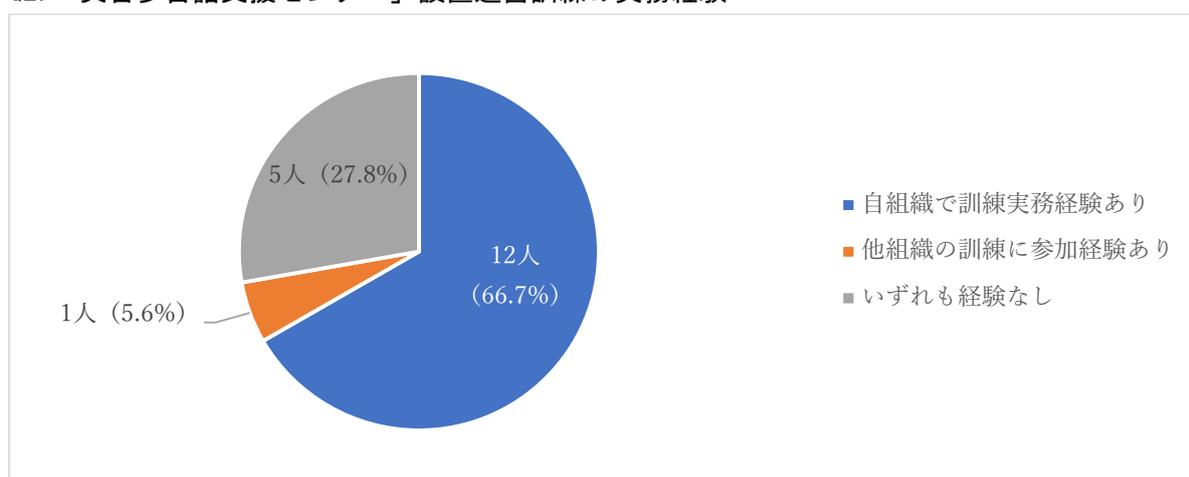
9. 参加者アンケート結果

* 回答者 18 名 (回収率 75%)

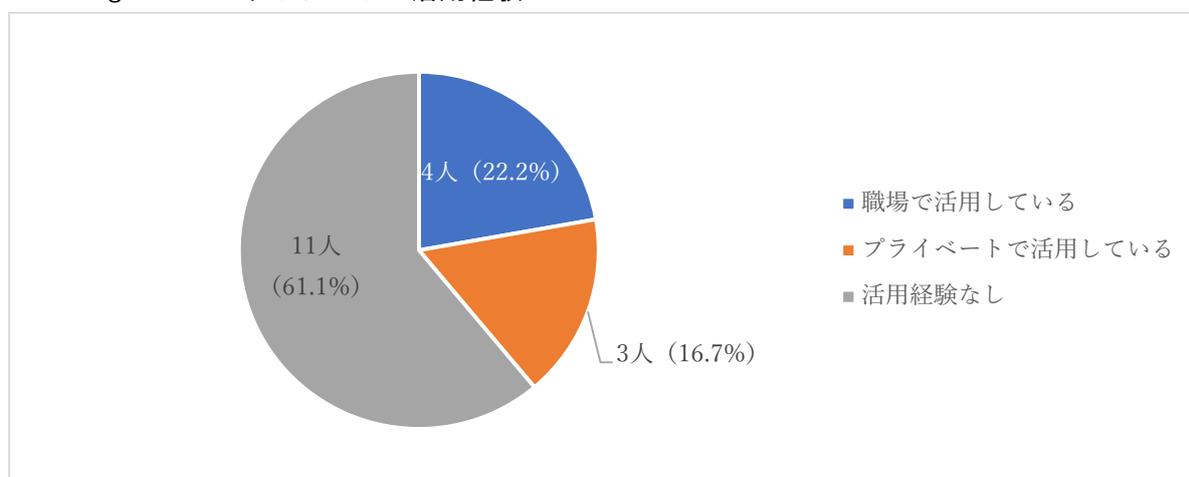
Q1. 災害時外国人支援に関する業務経験年数



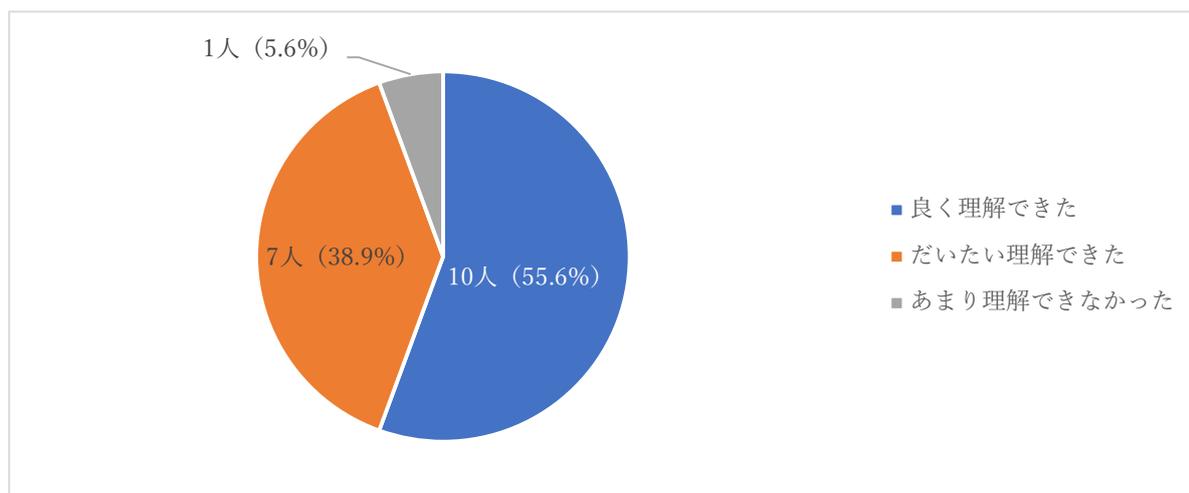
Q2. 「災害多言語支援センター」設置運営訓練の実務経験



Q3. Google スプレッドシートの活用経験



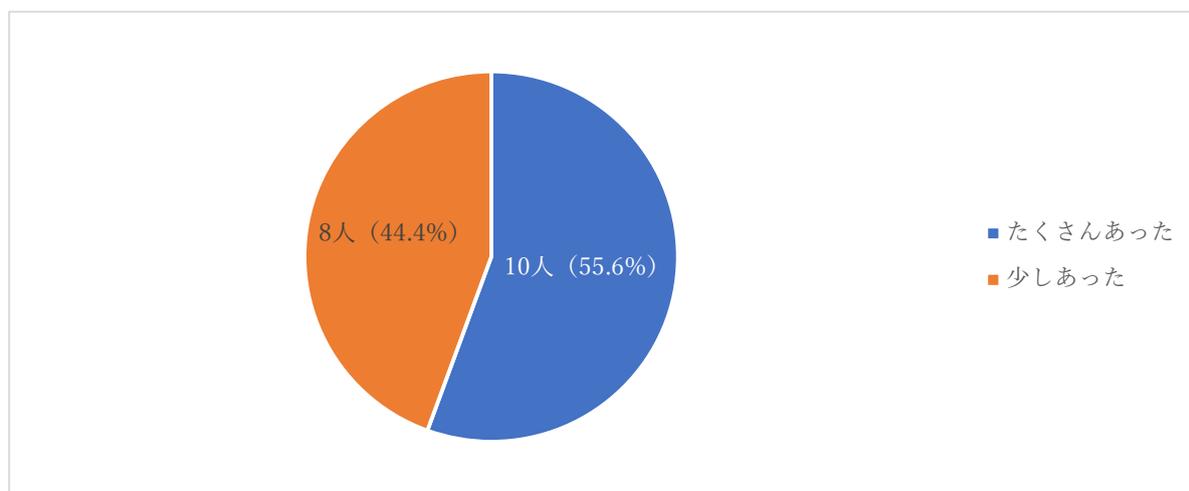
Q4. 基礎講義「佐賀県におけるオンラインツールを活用した災害時対応」の内容は、ご理解いただきましたか？



Q4-2. 「Q4-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください。

- スマホだと上手く入力出来なかったため。

Q5-1. グループディスカッション「オンラインツールの活用」の中で、参考になったことはありましたか？

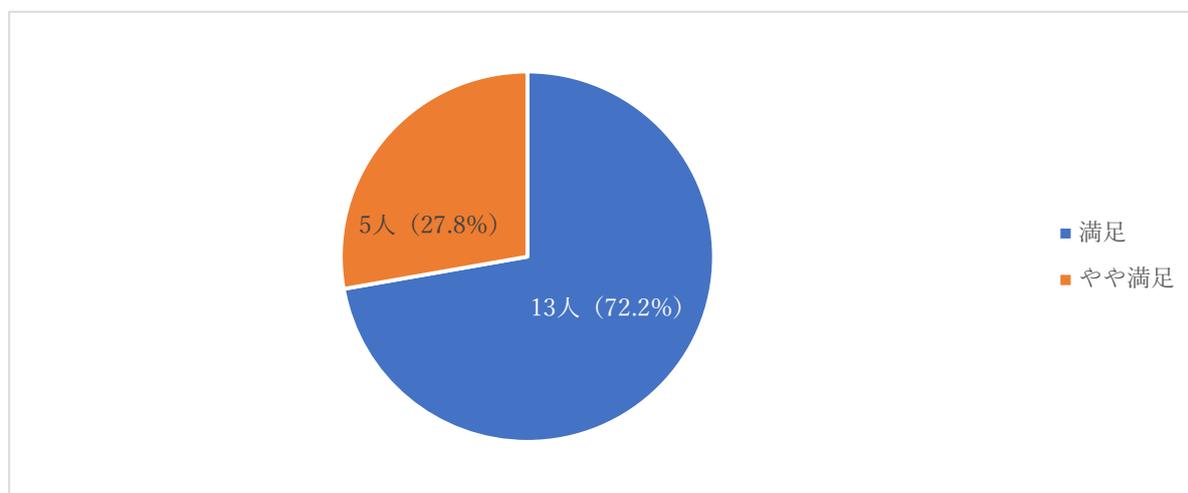


Q5-2. 「Q5-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったかを教えてください。

- Google スプレッドシートの活用が有効であった。
- フォームの使い方や利点だけでなく、そのツールを効果的に使用するための環境や人材など、まだまだ課題があることに気づきました。
- 情報の取捨選択の判断。(迷いが生じると時間がかかる)

- マニュアルだけでは災害時に適切に動けない懸念。
- 自団体職員と外団体職員とで同じツールを使う難しさを体感できた。
- 使用する機器 (PC,スマホ等) による入力難易度や自治体ごとに異なるセキュリティの問題などを認識することができた。
- マスコミプレスリリース内に、外国語でのお知らせ文を入れた雛形を作っておくこと (思いつくようで、意外に思いつきませんでした)。
- 日頃からの準備、想定訓練が重要であること。
- 佐賀県さんが職員ごとに担当の市町を割り当て、災害時に情報収集を行うという体制

Q6-1. 現地集合研修全体を通じての満足度をご回答ください。



Q6-2. 「Q6-1」の回答の理由や現地集合研修全体を通じてのご意見やご感想をお聞かせください。
他団体と連携が取れる。

- 顔の見える関係づくりが、出来たことが良かったです。また、佐賀の事例を直接伺うことで、知見が深まり、質問等にも対応いただけて有意義でした。
- 普段は交流することが出来ない方々とお会いできて、一緒にチームで活動して、今後お互い助け合えたらと思いました。
- 日頃自分の PC でのログインに慣れてしまい、業務用 PC でできないことが多く戸惑ったのが気づけてよかった。
- 災害時にコーディネートは上司で自分はプレイヤーとなっているが、現場に近い自分たちがやらないといけないと思った。次の自団体での訓練時にはそういった役割を明確にして取り組みたいと思いました。
- 他の自治体の取組を聞き、体験することで得られる「気づき」を、自所属にどう活かせるのかを考えるきっかけとなった。
- また、今回のワークショップはオンラインでも実施可能かとは思いますが、現地集合型でこそ四苦八苦する様子を感じることができた。
- 自組織のマニュアルは整備してあるが、訓練をする中で課題も多く、他県はどのようにやっ

ているのかという意見が出ていたタイミングだったので、佐賀県の内容を知れたのはとてもよかった。

- 今回の研修会に参加し、災害時のオンラインツール活用について、その有効性と同時に、ネット環境がない場合の対応を改めて考える良い機会となりました。ありがとうございました。

Q7. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- 避難所訓練。
- 翻訳や資料のまとめにおける AI の活用。
- 現状の災害時支援センターについての、意見交換ができるとありがたいです。
- 外国の方に情報を周知する方法や防災グッズの情報。
- 外国人も支援者になる（する）ために必要なことなど。
- 県と市町村、または、県と国際交流協会、の繋がりが深く、連携がスムーズに行われているモデルケース。
- 技能実習や特定技能の多い地域において、自治体と企業がスムーズに連携を取って災害に備えた活動を行っているモデルケース。
- 在留外国人の国籍にムスリム系の方が増えてきていることによる支援の難しさ（食や環境、地元住民との関係など）があると思うが、ムスリムも含め、生活や文化、宗教の違いをお互いに尊重しながらの災害時の対応、復旧、復興の進め方のヒントとなるような内容。
- ワンストップ相談窓口と災害時の相談窓口との区別。区別をしないなら、時間外対応や費用についての考えなどを聞きたいです。
- スプレッドシートの活用以上の DX 化について。
- 災害時活動ボランティアのモチベーションを平時から維持するためのノウハウ。
- 災害時に自治体が利活用できる制度、サービスの紹介。

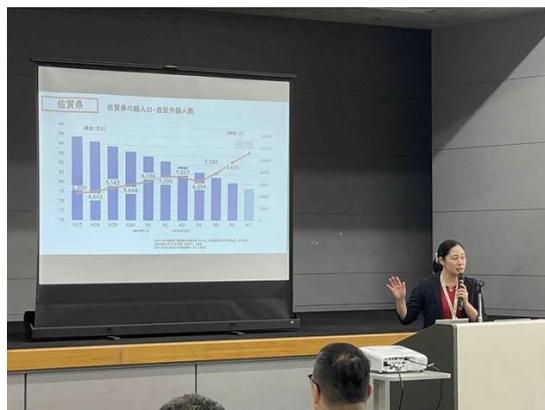
以上

10. 記録写真

<開会挨拶>



<講義：北御門氏>



<講義：矢富氏>



<グループディスカッション1>



<グループディスカッション2>



<全体共有・質疑応答>



以上